

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人わかば会
施設名	うえだ保育園
報告者	畠山 恵理
住所 連絡先	盛岡市高松 1 丁目 9 番 43 号
	Tel 019-661-1234
	E-Mail uedahoikuen@wakaba-kai.or.jp

○タイトル（保育計画）

本物の和太鼓の響きで、さらに心身ともに大きな成長を！

○主な助成備品

和太鼓・太鼓台 平太鼓・太鼓台 和太鼓パチ 子ども用はっぴ（鉢巻・帯含む）
チャップ

1. 保育計画策定の目的

社会福祉法人わかば会では豊かな表現・感性を育む保育を意識して取り組んでいます。

虎舞・鬼剣舞・豊年太鼓・ソーラン節等、子どもたちが心地よい響きを、仲間たちとともに民舞で体験できる機会をたくさんできるようにしています。「民舞」や「太鼓」には、「解放感」「達成感」「充実感」があふれています。

平成 31 年度 4 月から盛岡市の民営化政策に伴い、社会福祉法人わかば会が運営しているうえだ保育園は、当面は公立保育園と同じ保育内容にするように、自治体から求められています。しかし、少しずつではありますが、昭和 56 年から社会福祉法人わかば会で大切にしてきた保育内容をしていきたいと思い取り組み始めているところです。ぜひこのような文化をうえだ保育園でも伝承していけるようにしたいと思います。

そこで、地元の太鼓店で子どもたちに本物の和太鼓を一から作っていただき、子どもたちの心に響きわたる和太鼓の音に触れる経験を保育の中に取り入れたいと切に願い、保育計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

〈いよいよ太鼓がやってきた！〉

令和元年 12 月ようやく太鼓が届き、早速保育者がホールで叩いて見せると、ほとんどの子は間近で太鼓の音を聞くのが初めてで、迫力に圧倒され「びっくりした！」と音の大きさに驚いていました。実際に子どもたちも太鼓を叩いてみると「おとがひびく！」「おなかにど〜んど〜んってなるね。」と感動と興奮の表情を見せていました。大太鼓と平太鼓の音の違いも感じているようでした。

〈卒園式でやりたい！〉

年明けに、在園児の祖父母や地域にある長寿会の方々をお招きして「みずき団子の会」（岩手県に伝わる小正月の文化）を開き、そのオープニングとして保育者が「豊年太鼓の発表会」を行いました。豊年太鼓とは、石川県に伝わる民舞で、その昔、干ばつに困った村人たちが雨乞いのために打ち鳴らしたものとされています。

年長児は職員の豊年太鼓を見ると「かっこよかった！」「たいこやってみたい！」と盛り上がり、卒園式の第二部で発表することになりました。「ドン・ドドーン・ド・ドンドン」と口で唱えながらリズム打ちをし、毎日少しずつ太鼓に触れていきました。

バチの持ち方や、どこを叩くと音が響くかなど、一つひとつみんなで感じたことを確認しながら練習を進めていきました。小さい子に見守られ「かっこいいね！」「がんばってね！」と応援してもらう中で意欲的に取り組む姿がみられ、卒園式本番もはりきって発表し、お家の人と成長を喜びあうことができました。令和元年度はコロナウイルス感染症の対策として各家庭保護者二名までの参加となった為、いつも送り迎えで園にいらっしゃるおじいちゃん、おばあちゃんには直接見ってもらうことができませんでした。しかし、ビデオで見たというおばあちゃんが、「ビデオでも伝わるくらいすごい迫力だったよ！」という嬉しい感想を頂きました。

卒園式の二部で披露♪



ヤー！ 最後はかっこよく決めポーズ♪

〈田植えまつり、脱穀祭り〉

令和2年度春。昨年度の年長児が卒園式で豊年太鼓を発表したこともあり、子どもたちや先生たちの間にも少しずつ豊年太鼓の音色が根付いてきました。そんな中5月園庭工事が終わり、新しく大きな田んぼや畑ができ上がり、うえだ保育園で初めての田植えが行われました。せっかくの機会ということで、田んぼの前で保育者が豊年太鼓を披露。青空の下みんなで太鼓の響きを味わい、豊作を願いました。秋には無事、稲刈り・脱穀することができました。脱穀まつりでは、若い職員が、子どもたちの前で豊作を祝う豊年太鼓を発表。経験者から若い職員へたすきを渡し、練習を経ての発表となりました。この頃には子どもたちから「のびろ！そだて！いきろ！」と元気な豊年太鼓のかけ声が聞かれるようになりました。

田植えまつり♪



のび〜ろ♪そだ〜て♪いき〜ろ♪

脱穀まつり♪



たくさんお米がとれました！♪

3. 成果と評価

公立の保育園から引継ぎ、新しい園舎でスタートしたうえだ保育園。自然豊かな環境にも恵まれ、散歩や戸外遊びを思いきり楽しんできました。新しい環境や生活の中で様々な工夫をしながら“子どもたちにより良い保育を！”と職員も毎日奮闘していました。そんな中届いた大きな太鼓！和太鼓の音の響きはすぐに子どもたちの心をとらえました。保育者の叩く太鼓に憧れた年長児が、卒園式に向け“もっとかっこよく”“もっと力強く！”と毎朝練習に励んでいました。卒園式前には友だちと息を合わせて叩き、音がそろった時の響きの心地よさを全身で感じることができました。

年長児が叩く太鼓の音が響き渡ると、小さいクラスの子どもたちが自然と集い、憧れのまなざしを送り、一年を通して豊年太鼓に取り組むたびに、“まねっこ豊年太鼓”の音があちこちで響き渡り、ミルク缶を太鼓にして保育者と一緒に遊ぶ赤ちゃんの姿や新聞紙のバチで箱積み木を叩く1、2歳児の姿が見られるようになりました。

このように、全園児が和太鼓の音に触れる経験ができ、豊年太鼓は園全体の共通体験となり、保育を豊かにしてくれました。

ドンド〜ン♪ドンドン♪



2歳児まねっこ豊年太鼓♪



あかちゃん組も先生と一緒に♪

4. 今後の課題と展望

わかば会では、荒馬や虎舞、鬼剣舞など地域に根差した「郷土芸能」や「民舞」を積極的に保育に取り入れ広げています。民営化で公立の保育を引継ぎ、開園したばかりのうえだ保育園ではまだ取り組めずにいました。しかし和太鼓が園に来たことで大人も子どもも“やってみたい！”と様々な行事のなか豊年太鼓のリズムに触れて楽しむことができました。今年度の年長児は卒園式で荒馬にも挑戦する予定で、職員も研修に取り組んでいるところです。このように今後も一つひとつ民舞の踊りや太鼓の楽しさを伝えられるよう職員も学びながら、保育していきたいと思っています。

今回助成事業で頂いたものは末永く大切に使い続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

ラッセ〜ラ♪ラッセ〜ラ♪



荒馬の太鼓もまねっこ♪



ハイヨ〜〜♪

